

審 議 資 料

項目：生活環境（日影）

担当：平手委員

意 見

【日影】

オリンピックスタジアムの周辺には、日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等が存在することから、現地調査においては、既に選定している調査地点に加えて、工事の施行計画等が明らかになった段階で、新たな調査地点の追加について検討し、予測・評価すること。

審議資料

項目：アメニティ・文化（景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性）
担当：平手委員、奥水委員

意見

【景観】

- 1 圧迫感の変化の程度について、建築物の高さが低く圧迫感を生じない場合は、予測事項から除外するとしている。しかし、建築物の高さが低い場合であっても、幅広の建築物や、緑地・公園等の開けた空間において新たな建築物が建設される場合などには、圧迫感の程度が変化する可能性もあることから、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【景観】

- 2 オリンピックスタジアムは、四周が道路等で囲まれ、会場へのアクセスルートも複数あることが考えられることから、現地調査においては、既に選定している調査地点に加えて、工事の施行計画等が明らかになった段階で、新たな調査地点の追加について検討し、予測・評価すること。

【自然との触れ合い活動の場】

- 3 自然との触れ合い活動の場について、会場ごとに位置等を図示するとともに、機能及び利用経路について明らかにし、現況調査全体の結果を踏まえて事業計画や工事施行計画を策定し、予測・評価すること。

【歩行者空間の快適性】

- 4 現況調査について、既存資料調査のみとしているが、各会場へのアクセスルートの状況等について、必要に応じて現地調査を実施すること。

審 議 資 料

項目：生態系（生物の生育・生息基盤、水循環、生物・生態系、緑）

担当：興水委員

意 見

【生物の生育・生息基盤】

- 1 現況調査について、既存資料調査のみとしているが、建設工事等による改変が予想される会場については、「生物・生態系」と合わせて、現地調査を実施すること。

【水循環】

- 2 雨水浸透対策により雨水浸透量を増加させることが可能であることから、地下水の貴重な涵養源である武蔵野台地に立地する会場等について、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【水循環】

- 3 施行計画が具体化し、地下掘削や地下構築物を設置する場合、地下水の流動阻害を引き起こす可能性があることから、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【生物・生態系】

- 4 一部の事業計画地について、延床面積1万平方メートル未満の仮設施設であることや既存施設内を一部改修して利用することなどから、予測・評価項目として選定しないとしているが、工事の施行方法や工事期間等が明らかでなく、生物・生態系に影響を及ぼすおそれはないとした根拠についての記述も不足している。このため、これらの施行方法等について明らかにしたうえで、いったん損なわれると回復が容易でない生物・生態系の特質に鑑み、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【緑】

5 一部の事業計画地について、延床面積1万平方メートル未満の仮設施設であることから、予測・評価項目として選定しないとしているが、工事の施行方法や工事期間等が明らかでなく、緑に影響を及ぼすおそれはないとした根拠についての記述も不足している。このため、これらの施行方法等について明らかにしたうえで、いったん損なわれると回復が容易でない緑の特質に鑑み、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【緑】

6 オリンピックスタジアム計画地周辺の明治神宮外苑については、歴史的な経緯を有する場所であるとともに、風致地区であることに鑑み、緑の保全、保護について最大限の配慮をすること。なお、現地調査等においては、緑の状況等を把握するほか、樹木等有する歴史的な経緯や地域社会とのつながりなどについても、慎重かつ丁寧な調査を行うこと。

【緑】

7 緑の状況の調査方法(現地調査)については、調査時期・期間を秋の一季とするとしているが、植物が繁茂し2020年東京大会が開催される夏季の調査について、検討すること。

審 議 資 料

項目：資源・廃棄物（水利用、廃棄物、エコマテリアル）

担当：羽染委員

意 見

【水利用】

- 1 オリンピック・パラリンピック開催後も施設は存続することから、新設だけでなく既設施設についても、予測・評価項目として選定すること。

【廃棄物】

- 2 既存資料調査について、2012年ロンドンオリンピック競技大会のほか、1998年長野オリンピック競技大会や2002年サッカーワールドカップ等の日本で開催された大規模な国際競技大会等における、廃棄物の削減に関する取り組みについても調査すること。

【エコマテリアル】

- 3 大会開催に伴い使用する各種物品類について、他の国際大会における環境配慮型製品の使用状況を調査することを検討すること。

審 議 資 料

項目：温室効果ガス（温室効果ガス、エネルギー）

担当：野部委員

意 見

【温室効果ガス、エネルギー 共通】

仮施設について、予測の対象時点を大会開催中のみとしているが、大会開催後における仮施設の扱いが明らかになった段階で、必要な環境保全措置を講じるとともに、大会開催後についても、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

審 議 資 料

項目：土地利用（土地利用、地域分断、移転）

担当：興水委員

意 見

【土地利用】

- 1 臨海部における会場整備について、将来の土地利用と矛盾しないよう配慮すること。

【地域分断】

- 2 会場等が未利用地に立地の場合、新たな地域分断は生じないとして予測・評価項目として選定していないが、未利用地に分類した土地のなかに、公園等の公共施設が含まれているため、生活動線の分断及び進展について、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【地域分断】

- 3 仮設施設については、一時的なものであり恒常的な地域分断は生じないとしているが、会場設置により一定の負荷を生じるので、開催前の施設の存在について、必要に応じて予測・評価項目として選定すること。

【移転】

- 4 住居・店舗等の移転が必要となる場合は、関係住民等への情報提供に努めるなど十分に配慮すること。

審議資料

項目：安全・衛生・安心（安全、消防・防災、衛生）

担当：中口委員、千葉委員

意見

【安全】

- 1 大会には、日本国内はもとより、世界各国から様々なアスリートや観客が訪れる。全ての人にとって安全、安心、快適な大会となるよう、点字案内板やピクトグラムなどの図記号を利用した視覚的に分かりやすい案内表示、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等による物理的障壁の解消に努めること。

【消防・防災】

- 2 既存施設の耐震性及び防火性に関しては、改修や天井脱落対策等の履歴を把握するなどにより、安全性を確認すること。

【衛生】

- 3 大会には、世界各国からアスリートや観客が訪れることから、水道水基準について、他国の基準値との比較調査を行い、東京の水道水の安全性を明らかにすること。

審 議 資 料

項目：経済（経済波及、雇用、事業採算性）

担当：稲生委員

意 見

【経済波及】

1 2012年ロンドン大会及びその他のオリンピック・パラリンピック競技大会において、どのような新規ビジネスとビジネス機会が生じたのかについても調査すること。

【経済波及】

2 首都高速道路の建設等による大規模な経済波及があった1964年の東京大会についても調査すること。

【雇用】

3 2012年ロンドン大会の際、オリンピック関連の雇用は一時的なものが多かったという報告もあることから、大会開催後の雇用について他開催都市の事例も調査すること。

【事業採算性】

4 個別の会場毎に予測せず全体計画で予測としているが、個別の会場毎にも予測・評価を行うこと。

【事業採算性】

5 環境影響要因として、開催前の「施設の建設」及び開催中の「大会の運営」について選定しているが、新設及び既存(改修)の会場等については、開催後も施設が存続することから予測・評価すること。

